



北高夢ロード通信

第7号 (2020.7)

コロナ禍のなかで、できること

会長 波多野宏之

新型コロナウイルス感染症鎮静化の兆しが見えないまま、新年度も早や4カ月が経過しようとしています。会員の皆様におかれてはいかがお過ごしでしょうか。

3月に会報第6号で4月総会のご案内を差し上げてほどない4月初旬、隣接の北九州市で陽性者が急増しました。下関市でも対応のため総会会場に予定した公民館等の使用も不可能になり、急遽、総会を9月以降に延期することとし、その旨を全会員にはがきでお知らせしたところです。

しかし、その後も感染第2波、第3波が予測されるなど予断を許さない状況が続いております。先般の(Eメールによる通信)役員会ではこれを踏まえ、確実な議決を得るためにも総会を従来の集会形式でなく、書面(郵送)による開催とすることといたしました。本会報に同封して議案書と返信用はがきをお送りしますので、ご協力のほど、よろしく願いいたします。

この間、別稿のように、下関北高校も長期にわたって休校が続き、夢ロードの活動にも少なからぬ影響がでております。総会延期に際しては、4月の(Eメールによる通信)役員会で前年度事業報告、決算をまとめたほか、新年度事業、予算を暫定的に定め、可能な範囲での

活動を始めることとしました。5月、6月に予定していた<ギャラリー>での展示会は秋以降に延期したのをはじめ、デッサン教室も、当面、「三密」を避けるため行われておりません。栗野川関連の活動は限定した形で実施しており、詳細は別稿をご覧ください。

このコロナ禍を機に、社会の様々な場面で、従来型の勤務や授業形態、余暇のあり方などが再考されており、これは夢ロードの活動にとっても他人事ではありません。特に在住地別会員構成比では、25パーセントの方が山口県外在住です。そのうちの多くが、これまで何らかの形で行事や総会に参加されたことがあるとはいえ、頻繁には難しいことと思います。これを機に、とりあえず、ホームページやEメールをこれまで以上により有効に活用したいと思いますので、議案書表紙に記しております要領で、総会返信はがきでメールアドレス情報のご提供をお願いいたします。また、県外在住の会員におかれては、昨年度に続き、今回も「ふるさと納税」ご案内の資料を同封しております。下関北高校を指定して申し込んでいただくと、同校に直接資金が届く仕組みですので、ご協力のほどよろしく願いいたします。これも、夢ロードの活動への遠隔地からの参画のひとつの形にほかなりません。

(移動自粛中の東京より)

第4回 栗野川流域ホタル観察会

今年のホタル観察会は、6月5日に行いました。コロナウィルス感染を避けるための自粛として、下関北高の生徒さんや中学生・小学生への呼びかけをしませんでした。北高夢ロード会員の一部の方々に連絡をし、マスク着用・観察時の間隔は2m以上などのガイドラインを明示して行いました。参加者は3家族8名で若い人のいないさびしい観察会とはなりましたが、来年にどうつなげるかを考える時間となりました。

観察要領は昨年と全く同じで才が瀬で行い、そのあと一昨年に行った太田橋で観察をして解散しました。

薄曇りで湿度の高い夕刻で、ホタルの出やすい状況だと期待したのですが、藤岡さんの「満月だよ。どうかな。」の一言で「ぬかった。」と臍をかむ思いでした。しかし、才が瀬の川面に満月の光がきらきらと映り、普段見ることのできない栗野川の美しさに感動しました。幸いに満月に薄雲が掛かり、夜8時ごろになると、川べりから少し離れた道路側の高い林の上のホタルの光が見え始めました。川面があり、近くに林があるというホタルが出るためのロケーションがそろっていることが幸いしました。高いところに飛ぶオスが川面のメスを探し、夜半過ぎに交尾し、水辺のコケに産卵するのですが、それを観察するには、どうすればよいか、これからの課題です。30日後に孵化して1.5ミリの幼虫が水中生活をはじめ、5～6回の脱皮をして、翌年の4、5月の雨の夜川から這い出て土に潜ってさな

ぎになる。そんなところを川の現場で観る。ますます大変です。本で読んでわかったつもり、人の撮った映像で感動するのではなく、自分の目で観てその感動を起点に自然を子どもたち自身が考えるチャンスを提供できればと願っています。(岡崎)

下関北高地域探究授業サポート

今年の地域探究授業・自然環境グループは高2、3の合同で生徒さん13名、担当の先生2名の授業を北高夢ロードでサポートします。コロナウィルス感染を避けるため、学校近辺でのフィールドワークを中心に組み立てることになりました。

6月11日 菊川断層説明と等高線トレース。

6月18日 トレースに従い、ダンボールをカッターで切り出し立体模型の土台作り。

7月2日 北高正門前の久森川近辺の水田・畔・水路での生物観察。

7月9日 観察した生物のインターネットでの検索と文化の考察。

7月16日 久森の地層の露頭の観察予定。

7月29日 久森川水中生物の観察予定。



【水路での生物観察】

下関北高校の現在の様子

コロナウィルスのために、日常生活が大幅に変更をせざるを得なくなって4ヶ月以上が過ぎようとしています。密閉、密集、密接の3密を避けた非日常生活が、日常生活と変わりつつあります。緊急事態宣言解除したにもかかわらず、東京では感染者が思うように減っていません。そのため、波多野会長は下関市に帰ることができません。山口県は37名の感染者を出しましたが、5月5日からは感染者がありません。下関市は5名の感染者がいましたが、4月3日以来感染が確認されていません。隣の北九州市では第2波が押し寄せたのに、下関市はよく持ちこたえていると思います。このコロナの影響で、山口県の高校が再開したのは5月25日(月)からでした。複数個所の窓を開けて換気に努めるとともに、生徒の席の間に可能な限り距離を確保し、手の消毒やマスクを着用させるなどの感染予防対策を講じながら、通常授業に戻りつつあります。現在は、我が家の前を通っている生徒はほとんどマスクはしていません。このまま感染者が出ないことを祈るしかありません。

ところで、山口県では、令和2年4月に全国に先駆けて県内全ての公立小学校、中学校、高等学校、総合支援学校等がコミュニティ・スクールとなりました。それぞれの校種の特性を生かした取組の充実に加え、校種間連携や地域との協働による山口県ならではの取組を展開しています。下関北高校は平成30年度にコミュニティ・スクールを導入していま

す。コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置した学校のことで、保護者や地域住民が学校運営や学校運営への必要な支援に関して協議することにより、学校・家庭・地域が一体となって、より質の高い教育を提供していくための制度です。山口県における高校のコミュニティ・スクールでは、高校の特性や学校・学科の特色を踏まえて、地元地域や大学・企業等と連携することによって、地域や社会との協働体制を構築し、社会総がかりでの「地域教育力日本一」の実現をめざしています。具体的には、地域人材や地元企業などを活用した講演会やインターンシップ、地域行事や地元小中学校への学習支援などのボランティア活動、地元特産品を使用した商品開発や販売実習など、コミュニティ・スクールの仕組みを生かした高校ならではの取組を、地域と一体となって進めていきます。その取組の実現・充実を図るために、コミュニティ・スクール活動推進員を配置することになり、その役を私が担うことになりました。北高夢ロードの会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。(秋枝)



【テストの様子】

前夜～ヨロ大禍で思うこと～

みなさん、突然ですが「桃花鳥」を読めますか？これは「トキ」と読みます。普通は「鴝、朱鷺」という漢字を使います。トキの学名はニッポニア・ニッポン (Nipponia nippon) と言います。日本産野生種のトキは、2003年(平成15年)10月10日、最後の1羽が、大きく翼をはためかせて、飛び立ったかと思うまもなく、狭いケージの扉に頭を打ちつけて…死んでしまい、絶滅してしまいました。私は、さだまさしさんが1982年に出されたアルバム「夢の轍(わだち)」の中の「前夜(桃花鳥)」という曲を聴き、トキにすごく興味を覚え、なんとかならないだろうかとニュースで放送されるたびに思っていました。その後、「5羽になった」「3羽になった」「繁殖を試みたが失敗した」「最後の1羽になった」等のニュースを聞くたびに「前夜(桃花鳥)」を思い出すようになりました。「前夜」というタイトルは何を表しているのだろうか。何を表現したかったのだろうか。そういえば、「明日」というタイトルの小説を読んだことがあります。長崎に原爆が落とされる前日の人々の生活が描かれていました。明日原爆が投下されるなんてことはまったく考えていないごく普通の長崎市民の一人ひとりにスポットを当てたものでした。その人たちは、縁もゆかりもない。しかし、原爆投下によって「死」という共通点をもってしまふ。一瞬にしてこの世から姿を消されてしまふ。何も知らず過ごした前日とは一体何だったんだろうかと言うのが「明日」という小説でした。この「前夜(桃花鳥)」もそれに似たものを感じます。この歌の中にある「いつかこの国は無くなるんじゃないか」というフレーズが気になってしかたがありません。広島、長崎で原爆で亡くなられた方、被爆された方もまったく予想もしていなかった

ことが現実に起こったのです。トキが日本の空を縦横無尽に飛び交っていた時、だれが絶滅するって思っていたでしょう。現在、全世界がコロナウイルス感染に戦々恐々としています。私は何かが起こる「前夜」に思えてなりません。何かが生まれ、何かが失われていく。当たり前のことかもしれませんが、大切な何かを失いかけているような気がします。今、ひょっとすると絶滅の危機にあるのは、人間としての心ではないでしょうか。

(秋枝)

『豊北高校74年のあゆみ』冊子の頒布

『豊北高校74年のあゆみ』冊子については近日中に完成予定です。価格や販売方法はいずれお知らせいたします。

会費納入のお願い

2020年度会費を同封の振替用紙で、正会員2,000円、賛助会員(個人)一口5,000円をお振込ください。

郵便振替

口座記号：01350-1 口座番号：106942

加入者名：北高夢ロード実行委員会

北高夢ロード通信 第7号(年2回刊)

2020年7月20日発行

編集：会報編集委員会

(秋枝・古田・村上・戸田)

発行：北高夢ロード実行委員会

〒759-5511

山口県下関市豊北町滝部842-6

Tel: 083-252-6032

ホームページ：<http://yumeroad.org>

E-mail: kitakoyumeroad@gmail.com